



越  
里  
丸  
思  
葉

口  
豆  
冊  
尾

特別
~ 13
3633
7



門へ13  
3633  
卷 7

主眉山

昭和三十三年六月八日  
宮川曼太郎氏寄贈

越里氣思案

抑ト抑從カラ此ユレ上アゲ言モウシ焉マス。陽ハツ春ハル之ノ慶ガ



賀シウガ為シテ吉キチ存ゾシ矣マス而カ出デ越里氣

思案トイフ云イハク小冊子チイサキホシラ讀ヨミ而シテ覽ミ之ヲ

則ト不ズ堪コタヘ可シ笑シ為シテ解トク臆オソ是レ

備各三禡方之初笑笑家  
 者謂歲菊發有諺者如是  
 造之而普博而已也實珍  
 文漢文曰春笑一冊值千  
 金吁敬白

馬鹿山人序



安永二癸巳歲陽春

上品ニサエノ思案

フウねもくろく海にこころまきくバ一争はら  
 ハア火がまいこどもさふよ 子花 ハイ火をわけてこい  
子花 ハイ火をとりてまわつてまうまうとモウ何だきだ 子花  
 ハウ何ぞて四ざりまた今少おつてリケまバ一ツ争  
 ねるがくろく志由ううとく人かやう先ッコウトく葉あハ  
子花 林がふふいそわし 子花 がまうり 子花 花をりおよ葉の白く  
 何り 子花 ね好くおよ 子花 流 子花 流があるがゆい 子花 出合も 子花 面白く

三  
あはさそ今お玉也けりもづどやがむんそりの  
おま集が交くれいりん今泥い今との根よはうも  
いそにいまぬが大せいり志めーりきうぬとなく  
いさうそしくもあられぬーりわがこころがあ  
流流よあうお流でゆありよあうこころをさくま  
女房とあれ舞舞もつりあうおま集もはせ  
先つけ祝よあれ一はこをふ持して雅好があ  
けりて入白とーてたこの因ても琴酒酒を介

とよびうせてあうまでさそらさびとりのあはれあぢな  
りぬおオニ取のまよあうい中く印しくそ  
あぢなまぢあうこころを舞の唄ういあ人の見え  
引更そのあまよりいあんどーとオ人  
あげくさうだ相をぬのがうーあういあを  
引けけこごうまぢんかりてああれ志由こころを  
琴酒を考へあうで河東と二人てうあはれ  
かりぬさーさのたいこやもがなくさーさの

さつぎの合がわつてたどつていふおとて  
 ぞしきい<sup>な</sup>おぬきあつてあつて志を  
 らしく上むんさとかめてつてまれの太念を  
 入してつひのしつはる縁がなんよまゝ  
 そふ家屋しきまゝ<sup>な</sup>麻げうひよふとちも  
 くれが夫をひもぬれつて志をいふ  
 う縁をいふてをりおぬおぬつとらふ女房  
 とえきてつひのしつはる<sup>な</sup>ふよつていふ

さいまのほいともれつてきりて事ごとく  
 をたつてよまらうがほらぞもぬ人をまれま  
 よきのあはやもつとよらぬさつていふ  
 ちんげん志をえんおれをば老何の念も  
 ぶよぶといふぬぞうりやういふまゝいふ  
 ばあつてゆるまひなつてちと<sup>す</sup>あつていふ  
 てもちよまらうあつてよたつて田中人は  
 内ろげつてやをのつていふ何れ先やえん

三  
びいぞうにさせてこもよて後會にことばを  
十もなごやうおまじいをいろくえてけ  
かうやーぬほげききとーてお七會とゆき  
そよであるふとぞをきけたびくろめおま  
かまゆに<sup>ん</sup>高ま<sup>ら</sup>とやももやたよるま  
ちいふち川一舟をまげてもまじよるいん  
どかまといふよみげくくゆるきいみうかた  
つあこに<sup>か</sup>ま<sup>の</sup>ことあーどあぞとら

こもよて<sup>ま</sup>実のま<sup>い</sup>ぬ<sup>ら</sup>うたのりいすんがく  
地をよけうよすがてらいつらがまるくいきをけぬ  
やうなま<sup>あ</sup>とこもいさふくんで<sup>ま</sup>ま<sup>と</sup>あき  
うももけい<sup>い</sup>か<sup>し</sup>がだんを<sup>ま</sup>琴<sup>い</sup>湖<sup>を</sup>  
お湖<sup>を</sup>が<sup>ま</sup>か<sup>る</sup>ま<sup>れ</sup>ま<sup>れ</sup>

中品イキツノ部

了の月ころいムウはうとむいにたせこぬうまぬ  
 下きこぞくこれ市先きうまひていさなせ  
 かそうらかしのえんまらふみんが深川一かふか  
 今きこにわらうらねらとかつ志や川くまぐ  
 かくくならゆしこッウ今抜いおとせきぐあれ  
 道い乃ぬがにまつ一てこしをよ  
は不登世いくそらと  
とままの登むい  
 一ははの志ゆをうんぐや一まらこしと

一きよよははに酒好と和舞ごとぬふらと志まめ  
 下うおやぢ一いあふ一源一よれと一てとらと  
 淵蹴う理かりせらひさむうかじび一を引出て  
 けんでおきけきうで酒好くふめけ一ッ登  
 系けそそれ一あ一をほうにけう一の  
 ひうぬけにけぬれとまにま一う一と一  
 ね一むてもまひとら一うぬうあてゆふ  
 させれこぬが酒好とりあれとこいさゆをのむ





い夫ろくさびきこまき今我ありのんは八分  
死し瓜うりでもおきぬいひがまらやう老人よあは  
いあよそらういあくう秘をまあうてあふ  
してとふまはらうたはをさるまはま  
まどきや川がらた年とし的ていでまのりあこし記しあぬ  
たたとさくこれとまうよそあひあうたげ  
さしえんまといふよそ何ぬいれどがこふら  
りだにかんもがくを事ことにかしひくれまふも

かりたせいあくきうせいぐらんかしかあぬも  
そまそあといあうば志川のおおんごいあふ  
うま〜ぬとすい〜わといをぶくんでたま  
たういあせいきん〜物よできま〜こ  
あ〜とがい〜きふ〜ま

下品ヤリクリノ部

さそとくいさしこともまのやう  
あくせくくせはふこふても厚よ二二  
ろくも知<sup>で</sup>れぬりよみそくがまこの  
先<sup>先</sup>ず<sup>先</sup>玉都りとら二二百ろぬまこ  
厚くせぬま川おんまりいれがふちよ  
むる<sup>むる</sup>厚くけりよさくまき<sup>まき</sup>がからけ  
まろこくおもひはきとらんやけけ

いどいんめんて角<sup>角</sup>下<sup>下</sup>けさふがたど  
ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ふ<sup>ふ</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>が<sup>が</sup>な<sup>な</sup>ん<sup>ん</sup>や  
お<sup>お</sup>ろ<sup>ろ</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>を<sup>を</sup>扱<sup>扱</sup>い<sup>い</sup>里<sup>里</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>く<sup>く</sup>や  
と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>を<sup>を</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>そ<sup>そ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>下<sup>下</sup>さ<sup>さ</sup>れ<sup>れ</sup>ば  
ふ<sup>ふ</sup>い<sup>い</sup>が<sup>が</sup>め<sup>め</sup>は<sup>は</sup>れ<sup>れ</sup>く<sup>く</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>あ</sup>よ<sup>よ</sup>そ<sup>そ</sup>て<sup>て</sup>け<sup>け</sup>て  
ろ<sup>ろ</sup>れ<sup>れ</sup>て<sup>て</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>こ<sup>こ</sup>ろ<sup>ろ</sup>だ<sup>だ</sup>が<sup>が</sup>け<sup>け</sup>れ<sup>れ</sup>ち<sup>ち</sup>く<sup>く</sup>いな<sup>いな</sup>の  
あ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>こ<sup>こ</sup>は<sup>は</sup>き<sup>き</sup>や<sup>や</sup>い<sup>い</sup>で<sup>で</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>わ<sup>わ</sup>る<sup>る</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>ん<sup>ん</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>は  
か<sup>か</sup>れ<sup>れ</sup>し<sup>し</sup>ち<sup>ち</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>こ<sup>こ</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>

ひやういふりかききこたごうごうけいそ  
ひやくしきふらふといふこゝは解きこし  
てけかりさをまてふふだがまゝいふ  
ひやくしきふらふさきをを  
ふれかきこたごうごうけいそ  
みよのしらふこゝを解きこし  
やうふしきふらふは解きこたごうごう  
さつぎををふらふこゝを解きこたごう

おつこまきけりおしこゝうけいそ  
でたふくしげこゝを解きこたごう  
しげこゝを解きこたごう  
かきこたごうを解きこたごう  
まきこたごうを解きこたごう  
ことごとくまきこたごうを解きこたごう  
の解きこたごうを解きこたごう

厚しよしゆりまきんあきまきんせうは  
おふんせうしとれしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
せんに祿ん何けおんときしゆりしゆり  
いつしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
ひしゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

しとあひてしゆりしゆりしゆりしゆり  
まいましゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり  
しゆりしゆりしゆりしゆりしゆり

何れかおのまきかたがやまがくまうらへんかひひ  
どくか祢のちのよいこまらどあがまひの階ひまど  
ぢまらりとりめ飛くたうていあといあまに  
あけいこもるやあけいげあけいんあめ  
なんでもいあけいんあけいんあけい  
いあけいんあけいんあけいんあけい  
あけいんあけいんあけいんあけいん

後

小節南東如也曲佳情  
也子中云其外衆の  
書尔何々ハ

老をへまよふを素し  
出起りハ武日遊龍子  
能く會ふあり碎後  
胸中の情懐を語り

命を問ふ事予側あり  
素はれぬ是をえすは  
暖春しけりうぬ年ぬ  
笑ふ事ありたりて

倭梓  
——  
江豆亦著



あやかし志わん  
成文思案  
六寸三寸の  
公案と志る也

右を下に案

安永二歳  
己ノ初春





